

当報告の内容は著者の著作物です。

## 文法研究ワークショップ（第2回）～「形容詞」をめぐる諸問題（2）

開催日時：平成23年10月29日（土曜日）午後2時～午後5時

開催場所：AA研セミナー室（301室）

### 報告1

報告者名：鍛冶広真（東京大学大学院）

報告タイトル：エウエン語の形容詞節

### 報告2

報告者名：新永悠人（東京大学大学院）

報告タイトル：北琉球奄美湯湾方言の形容詞：通時的变化を共時的に記述する

コーディネーター：大塚行誠（AA研研究機関研究員）、児島康宏（AA研特任研究員）

### ワークショップ概要：

本ワークショップは、記述言語学を志す学生や研究者が最新の研究成果や調査データを紹介しあうことにより、学生・研究者の交流や最新の情報の共有を促進することを目指して企画された。平成23年5月28日に行なわれた第1回に引き続き、第2回目のワークショップも「形容詞」をテーマとして、2名の大学院生が報告を行なった。

会場への出席者は10名。前回と同様に、ワークショップはUstreamを通じてインターネット上で放送された。それを利用して遠隔地からも数名の参加者があった。遠隔地からの参加者の質問やコメントは、Twitterなどを通して受け付けた。

最初の報告者、鍛冶広真氏（東京大学大学院）は、シベリアで話されているエウエン語に関して、動詞から派生された形動詞によってつくられるさまざまなタイプの関係節の構造・機能を検討した。関係節と主要部名詞とのあいだの意味関係や、それに応じた形式の違い、また、いわゆる「主要部内在型関係節」の性質などについて、活発な質疑応答があった。

その後、休憩をはさんで、新永悠人氏（東京大学大学院）が、北琉球奄美湯湾方言におけるいわゆる「形容詞」の品詞分類上の扱いについて報告した。品詞分類が何を対象として行なわれるべきかという点について、参加者からも多くの意見が出て、深く突っ込んだ議論が行なわれた。

新永氏の報告の冒頭で、機器のトラブルによりインターネット上での放送が5分ほど中断した。中継を視聴していた方々にお詫びするとともに、今後同様の問題が起こらないように十分に注意したい。

報告書作成：大塚行誠（AA研研究機関研究員）、児島康宏（AA研特任研究員）

## 報告要旨

### 報告 1 : 「エウエン語の形容詞節」(鍛冶広真、東京大学大学院)

本発表は Malchukov (1995) に基づき、エウエン語 (ツングース諸語) の関係節を扱った。エウエン語では形動詞節が名詞を修飾することが可能であるが、形動詞節を主要部名詞に前置するタイプの関係節と、主要部名詞が関係節内にあるタイプの主要部内在型関係節がある。

### 報告 2 : 「北琉球奄美湯湾方言の形容詞 : 通時的変化を共時的に記述する」(新永悠人、東京大学大学院)

湯湾方言の品詞を論じる場合、語根クラス、語幹クラス、語クラスを分けて議論する必要がある。その上で、湯湾方言の「形容詞」は、語幹クラスにのみ認められる。これは、湯湾方言において、「形容詞」を形成する接辞が、通時的な変化の途上であることが原因である。